

KANUMA NO MEISHO

# 鹿沼の名匠

## 高久裕司

たかく

ゆうじ



### 高久 裕司

高久裕司さんは、表装(表具作業・壁装作業)の一級表装技能士の国家資格を有しており、歴史的に価値の高い文化財の掛け軸や巻物などの修復を数多く手掛け、美術館や博物館からの依頼が多く、200年以上続く表装店の6代目となる父・幸太郎さんと共に作業しながら修行をし、長年培った技術は高く評価されています。

古くなって黄ばんだり折り目がついたりしてしまったもの、虫食いが発生した書や画の修復作業が始まると、表情が引き締まり、刷毛を持つ手には緊張感が漂ってきます。元来の色が

損なわれないようにする<sup>にかゆえき</sup>膠液での「色止め」、汚れを落とす「洗浄」、穴があいている場合に施す「穴埋め」、そして数種類の紙を貼って補強する「裏打ち」など一連の表具作業で掛け軸や屏風に1か月から3か月程かけて仕上げていきます。

表具師の仕事は、根気がいり、さらに神経を使うため、集中した作業が続きます。作業ひとつひとつが修行です。今後も「作品が往時の輝きを取戻しお客さんが喜んでくれるよう、また、100年先の職人に繋がるよう心掛け技術を磨いていきます」と抱負を語っています。

◆表装(表具作業・壁装作業)

★鹿沼市